

# 最近、農業発展に力を入れている朝鮮

朝鮮社会科学者協会室長・博士・副教授 金蒼景（キム・チャンギョン）

今日、朝鮮では農業を社会主義強盛大国建設における天下の大本とみなし、人民の食糧問題、食べる問題を解決するため農業発展に大きな力を入れている。

人民生活の向上を党と国家活動の最高原則としている朝鮮では、農業を発展させるために主体農法に従い、適地適作、適期適作の原則を徹底的に守りながら、種子革命を基本とし、ジャガイモ農業革命を起こして、二毛作を発展させつつ、畜産と養魚を科学化、集約化している。

## 1. 穀類生産に力を入れている

- 主体農法に従い、適地適作、適期適作の原則を徹底的に守っている

農業生産の基礎は、適地適作、適期適作の原則に基づき、地帯的特性に従って作物と品種を配置し、その肥培管理を科学技術的にすることである。農業は工業と異なり、土地を基本生産手段にして、生物体を扱う生産部門である。作物と品種の栽培過程は、それぞれ異なる気候風土条件を持つ広い空間で、さまざまな生物学的特性を持つ作物と品種を対象に行われる。このことから土地と気候条件に従い作物と品種を植え、すべての農作業を適時に質を保障して行うことによって、高く安全な収穫を得て高い経済的効果と実利を確固として保障することができる。

三面が海で囲まれており、山が多いため気候の変化が激しく、地方ごとに地域ごとに気候的条件が異なり、土壌条件も等しくない朝鮮の実情から、農業生産において適地適作、適期適作の原則を守ることは、もっとも重要な問題として提起される。朝鮮では、自国の実情から出発して、農業生産で適地適作、適期適作の原則を徹底的に貫徹している。

まず、適地適作の原則で農業生産を行うようにしている。適切な土地に適切な作物と品種を植え、農業総生産量において当該地帯でよく実る作物と品種が支配的な割当てを占めるようにしている。稲とトウモロコシがよく実る地帯では、稲とトウモロコシの農業を主にして、稲とトウモロコシがあまり実らない山間地帯ではジャガイモ農業を主として、その地帯でよく実る作物を多く栽培したりするようにしている。両江道ではジャガイモを「畑でとれる穀物の王」と規定し、ジャガイモ農業に力を入れている。咸鏡北道では薬草がよくできる所に薬草を植えつつ、ジャガイモ

も多く栽培している。慈江道ではジャガイモを栽培しつつ、桑園を作ってまゆを生産している。各地方、各協同農場において地帯の特性と土壌条件によって、どのような作物と品種を植えると収穫が高く、さらに効果的なのかを具体的に確認しつつ、最も適切な作物と品種を配置するようにしている。

次に、すべての営農作業を時季に合わせて行っている。時季性を要求する農業生産の特性に従い、農業部門では毎年、営農準備を適時に徹底的に行い、種をまくことから秋の収穫に至るまで、すべての営農作業を時季をのがさずに効率よく行い、農作物を植え育てる各工程で科学技術的要求をよく守るようにしている。これと共に、毎年田植えと草取り、秋の収穫の時に労力支援事業をしっかりと組織して、手間がかかる農作業を予定通りに終わらせるようにする一方、農民たちが農作業を丹念に、しっかりと行うようにしている。

- 種子革命を基本として進めている

種子革命は、農業生産で飛躍を起こすうえで先決条件となる。種子革命は、生命体の遺伝と変異の合法則性に基づいて、その生物学的本性を人の要求に従い改造する創造的な事業である。農作業は、種子の増殖過程である。種子は、当該生命体の特性を規定する遺伝的要因を総合的に持っており、そこから育つ生命体の生産性は種子の質によって規定される。朝鮮のことわざに「落落長松<sup>1</sup>も根本は種子」という話があり、これは大きい松も種から出発するという言葉として種子の重要性を言う言葉である。

種子は、改良をうまくすればその遺伝的生産能力をいくらでも高めることができる特性を持っている。最近、世界的な農業科学発展の現実には、良い種子を育種できれば、従

<sup>1</sup>【訳者注】落落長松とは、枝振り立派ですと伸びている松の大木をいう。

来は予測できなかったような高い収穫を得ることができるということを見せている。朝鮮では、農業生産で種子革命が持つ意義と重要性から出発して、育種事業で国の農業生産の実況が要求する種子を得て、採種体系を正しく確立するようにしている。

まず、育種事業を強化して国の風土条件に適合した新しい多収穫品種を多く作り出している。朝鮮において種子革命の基本方向は、肥料所要量が少ないながらも高い収穫を出す品種、生育期日が短く耐寒性に富み収穫が高い品種、かんばつや風雨、冷害、病虫害等の厳しい自然条件によく耐える品種を得ることにある。採種体系を正しく確立し、種子に対する採種事業を決定的に改善するために努力している。採種事業は、種子革命の重要な構成の部分である。いくら良い品種を育種しても採種事業がなければ、生産において成果を出すことはできない。専門採種単位らを具体的な実情に従い、合理的に組織して必要な技術労力と生産手段を十分に保障して、自国の実情に応じた質の良い種子をより多く生産することを保障するようにしている。

穀物生産だけでなく畜産、果樹、蚕業をはじめとする農村経理のすべての部門でも種子革命を積極的に促している。農業において種子が基本であるように、畜産でも飼料の摂取量が少なく、かつ早く育つ品種を得るようにし、果樹でも収穫が高く、国の気候風土に適合した品種を育種するために努力している。

#### - ジャガイモ農業で革命を起こすために努力している

ジャガイモ農業で革命を起こすことは、農業生産を促し、人民の食べる問題を円満に解決するために立ち向かうべき重要な問題の一つである。ジャガイモは、単位当たり収穫高が一番高い作物であり、他の食糧作物に比べて、比較的温度が低い地帯でよく実る耐寒性作物である。山間地帯では、ジャガイモ農業がトウモロコシ農業に比べて、収穫高が高く、すべての面で有利である。また、ジャガイモは健康長寿食品であり、主食として利用できる。

昔から咸鏡北道の茂山（ムサン）地方を中心に栽培されてきたジャガイモは、こんにち両江道と慈江道、咸鏡南北道、江原道の海拔が比較的高いところでも安定して栽培されている。朝鮮では、山が多くて冷害が激しい地理的な条件においてジャガイモ農業を多くすることが穀類生産を増

やし、食べる問題を解決する上で有利であると確信し、ジャガイモ農業革命の方針を出して、その実現のために闘争を強く促している。

まず、種子を改良して、営農技術と営農作業を革新するようにしている。多収穫ジャガイモ種子を改良して、品種をはやく拡大繁殖させるために積極的に努力している。そして、水肥料<sup>2</sup>をはじめとする有機質肥料と複合微生物肥料を多く生産して、ジャガイモ畑の地力を高めている。そして、ジャガイモ生産技術工程計画を正確にたてて、ジャガイモ畑への施肥、ジャガイモ畑の草取り、病虫害の防止とジャガイモを掘ることをはじめとするすべての営農技術と営農作業を現代的な科学技術発展の趨勢に従い絶えず改善していつている。

次に、ジャガイモ栽培面積を増やすようにしている。国の北部高山地帯をはじめとして、ジャガイモ生産に適した地域でジャガイモ畑の面積を大きく増やし、平野地帯で田畑が多い地帯でも前作としてジャガイモを多く植えるようにしている。また、両江道では大紅湍（テホンダン）郡を全国の手本として、ジャガイモ農業革命を強く進めている。大紅湍郡をジャガイモ農業の手本として、この単位の幹部たちの技術実務水準を高め、ジャガイモ農業に必要な現代的な機械技術手段も多く供給している。そして、大紅湍郡がジャガイモ生産において、成し遂げた経験を全国に広く一般化している。

#### - 二毛作農業を発展させている

二毛作農業を発展させるのは、農業生産を決定的に高めて、食糧問題、食べる問題を解決するための確固とした担保となる。耕作地の面積が制限されている朝鮮では、二毛作農業を行ってこそ食糧生産を増やし、さまざまな穀類を生産して、人民の食生活を向上させることができる。現時期、朝鮮では二毛作農業が食糧問題を解決する重要な方法として確立し、それを積極的に奨励している。

まず、総穀類生産量を高めることを基本として作物と品種を選定して、栽培している。二毛作農業の栽培型は、穀類対穀類、穀類対ジャガイモ、穀類対野菜、穀類対工芸作物油、穀類対飼料作物、穀類対緑肥作物などのさまざまな栽培型がある。

二毛作農業を通じて解決しようとしているのは食糧問題、食べる問題にあることから穀類対穀類、穀類対ジャガ

<sup>2</sup>【訳者注】複合微生物肥料とも呼ばれる。『朝鮮新報』によれば、人体に有益な酵母や乳酸菌、放線菌、光合成細菌など80余種の土壤微生物を集めて混ぜ合わせた液体状の有機肥料で、水で薄めて使うため、少量で広い地域に散布でき、アルカリ性の肥沃な土壌に変える特長を持ち、発酵堆肥を作るのにも使われるとのことである。

イモ栽培が基本となっている。二毛作農業において、基本的な穀類作物とジャガイモの収穫を主作として栽培する場合の水準を維持しながら、前後作の穀類作物の収穫を最大化することに大きな力を入れている。

次に、二毛作農業の面積をもっと多く増やしている。二毛作農業の面積を自国の具体的な条件を検討しながら、それに従い増やしていった。二毛作農業の面積は、気候風土の条件を考慮して、直ちに適地を選定して労力と種子、肥料等の営農物資保障条件の具体的な検討結果に基づいて、その面積を最大限に増やす原則として規定している。そうすることにより、耕地面積が制限されている不利な条件でも土地の利用率を最大限に高めることができるようになったし、長年の歳月のなかで代々単作にとどまっていた土地に二毛作農業の新しい時代が開かれることができるようになった。

## 2. 畜産と養魚にも力を入れている

### - 畜産業を発展させている

畜産業の発展は、人民の食べる問題を解決して人民生活を向上させることにおいて大きな役割を果たす。畜産は、生命を持った家畜たちを飼育して、肉と卵、牛乳を基本的に生産する農業の一部である。畜産業は、肉と卵、牛乳等の人民の食生活様式を改善する上で切実に要求されるたんぱく食品を解決するだけでなく、穀類生産を増やし、軽工業の原料問題を解決することにも積極的に貢献する。朝鮮では、人民に肉と卵、牛乳を円満に供給することができるように畜産業を発展させることに大きい力を入れている。

まず、良い品種の家畜を育てるようにしている。畜産業も農作業と同じように種子が良くなければならないし、家畜の種類も良いものを選択して育てることによって、良い結果を得ることができる。

朝鮮では、ヤギ、ウサギ、牛、羊、ガチョウをはじめとする草食の家畜と豚、鶏をはじめとする品種を育てている。特に耕作地の面積が制限されていて、山が多い条件下で草食の家畜を多く育てている。良い品種の家畜を多く育てるため、育種場と種蓄場を上手に管理し、この部門の科学者、技術者の役割を高め、新しい品種の家畜の育成をやり遂げている。これと共に、朝鮮の従来種を上手く保存して、繁殖させるための事業にも関心を向けている。

次に飼料の問題を解決するため、大きな力を入れている。畜産業では、一番重要なことが種子でその次は飼料である。

家畜は、必要な栄養素らを十分に摂取することによって良く育つ。草食の家畜の飼料問題を解決するため、草地を大々的に作っている。現代化した家畜農場で集約的に育てる家畜たちの飼料を自国の生産基地で生産して、保障している。

また、家禽業の発展に特別な関心を向けて、高度に現代化した家禽基地を建設している。国のあちこちに、種子と施設、飼養管理の方法において昔とは根本的に異なる高度に現代化した鶏工場<sup>3</sup>を新しく建設して、すでにある鶏工場、アヒル工場らを改造、現代化した。

そのほか能力が大きい現代的な豚工場も立ち上げた。草食の家畜を育てることを全軍・全民衆的運動として力をいれ、飼料問題を解決することに大きな力を入れながら、至る所に現代的な家禽基地らを立ち上げる中で畜産業の新しい歴史が創造され、人民生活の向上のため畜産業の土台がよりしっかりと備えられることになった。

### - 養魚を科学化、集約化している

養魚を科学化、集約化することは、魚の生産を早期に増やして、人民にさらに多い魚を供給することができるようにする基本的な担保である。養魚は、沿岸や湖水、川、貯水池、淀み等に魚の資源を人工的に作って計画的に生産する収益性が高い経済的生産分野の一つである。朝鮮は、海とともに多数の湖水と河川、貯水池、水田、泉など広大な水面を持っているので、このような有利な自然・地理的な条件を効果的に利用して、養魚を発展させれば人民の食生活の向上に大きく資する。

養魚においてはまず、魚種と品種を正しく規定するようにしている。魚の種類と品種は非常に多くて、それらが要求する環境条件が異なって、それぞれ地方と単位の具体的な条件が異なるので、魚種と品種の選択を科学的に行うことにより、養魚で成果を上げることができる。魚の種類と品種の選択事業を当該地帯の水の条件、餌の条件、労力、資材、資金の保障可能性をよく打算することによって規定するようにしている。養魚を集約化するうえで、最も良い魚種をナマズと考え、ナマズ工場らをあちこちに立ち上げ、最新養魚技術に基づいて川魚の養殖を行うようにしている。

次に、子魚と飼料問題を解決することに大きな力を入れるようにしている。農業において、種子と肥料、水がなければならぬように養魚でも種子、即ち子魚と飼料がなければならぬ。養魚に必要な子魚問題を解決するため、養

<sup>3</sup>【訳者注】鶏工場とは、養鶏場のことを意味する。また、養鶏だけでなく、鶏肉製品の加工施設が付帯している施設もある。アヒル工場、豚工場なども同じ概念である。

魚事業所の原種場または種漁場から良い品種の種子魚を受けとり、自らの種子魚の群を編成して、魚巢と孵化を科学的に行って、より多い子魚を生産するようにしている。これと共に配合飼料と自然飼料を正しく配合して、魚の飼料を私たちの方式で解決するようにしている。

また、魚を科学的に育てるようにしている。魚を育てることを科学的にすることによって、同じ条件でも経済的効果性を高めることができ、人民生活に实际的に貢献することができる。魚を養魚池で多くの層に分けて育て、養魚の効果性を高めており、病気をはじめとして色々な原因によって発生する魚の被害を防ぐための対策もたてている。魚を集約的に育てると共に湖水と貯水池、河川、水田など自然養魚が可能なすべての場所に子魚を放し飼いする事業

もあわせて行うようにしている。そうすることにより、河川と貯水池には魚の数がはやく増えたとし、先軍時代になり、全国釣り競技大会という新しい競技まで組織・進行して、大同江に異彩を放った風景をひろげた。これと共に朝鮮では、養魚を科学化、集約化するための事業で成果をあげることによって、人民の食べる問題を解決することに助けを与えている。

朝鮮では、農業生産において経験を土台にして、今後も農業発展に大きい力を入れることによって、人民の食糧問題、食べる問題をより円満に解決し、社会主義強盛大国の建設により力をいれていこう。

[ 朝鮮語原稿をERINAにて翻訳 ]